

# 令和5年度 学校自己評価システムシート (県立大宮商業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	地域とともに未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒を育成する
--------	--------------------------------

重点目標	1 授業改善により、生徒の主体性を育み、学習習慣の確立と学力を定着させる 2 キャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高め、進路実現を支援する 3 地域・保護者・外部団体との連携強化と教育活動の効果的な情報発信により、愛され信頼される学校をつくる 4 コミュニケーション能力の育成により、チャレンジ精神に溢れたたくましい人材をつくる
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	12名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○少人数のため、対話的な授業展開により、学びやすい環境にある。 ○主体的に学ぶことができる生徒は少ない。 <課題> ○「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践の工夫が必要なこと。 ○義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、基礎学力の定着、検定試験合格率向上の具体策が必要なこと。	○生徒に「主体的に学ぶ方法」を学習させ、基礎学力を定着させる。  ○各種検定試験への参加者及び合格者を増加させる。	①生徒の学習への興味・関心を引き出すために、ICTを活用する。 ②授業の展開の中で生徒が成功体験を積み重ねることができる場面を増やす。 ③学習習慣の確立と学力を定着させるために、生徒の到達度に応じた学習支援が行えるよう、教職員全体で生徒の情報を共有する。 ④自ら問題解決に取り組むために図書館の利用を増加させる。 ⑤実施される主な検定試験の一覧を示し、各種検定試験の積極的な受験を促す。	①各学期における欠点保有率が昨年度に比べ減少したか。(各学期10%以下であったか。) ②アンケートにおける授業満足度が年間を通して90%以上であったか。 ③図書館での授業が増加したか。 ④図書貸出数が増加したか。 ⑤検定試験の合格率が昨年度と比較して増加したか。	①2学期末での欠点保有率の減少ができなかった。(R4:R5 21%:27%) ②授業満足度は、若干上昇した。「Q9 ..入学してよかった」(R4:R5 68%:79%) ③図書館を利用した授業が各教科で行われ、④図書の貸出数が増加 ⑤日本語ワープロ検定、準1級2名 2級7名、準2級2名 3級9名、4級2名 情報処理検定、2級2名、3級5名 簿記能力検定 総合1級1名、2級2名、3級1名 日商簿記検定 2級1名	B	生徒の主体性を引き出す取り組みの具現化を目指す。 ・補習や個別指導を充実させるとともに、各授業のさらなる改善に取り組み欠点保有率の減少だけでなく、成績優秀者数を増加させる。 ・商業関係の検定以外の漢字検定や英語検定の受験者数を増加させるため、生徒の意識改革を促す取り組みを模索する。今年度以上に生徒が主体的に授業に参加するように導く。 ・普通科、商業科問わず、取得可能な検定試験を、生徒自らが積極的にチャレンジするような意識付けを、職員全体で行うことに努めたい。
2	<現状> ○キャリア・パスポートと外部の人的資源の効果的な活用で、進路行事が充実したことで、進路意識の高い生徒が増加している。一方、主体的に進路活動を行う生徒とそうでない生徒の差がある。 <課題> ○進路活動の取組がおそい生徒への対応。 ○生徒の希望職種と求人とのミスマッチへの対応。 ○低学年の生徒の進路意識が低いこと。	○キャリア・パスポートを活用した進路指導が実践させる。  ○自主的、主体的に進路活動を行わせる。  ○生徒の希望職種と求人とのミスマッチを解消する取り組みをする。 ○低学年から進路意識を向上させる取り組みを行う。	①キャリア教育を充実し、進路活動のためにキャリア・パスポートを授業で用いる。 ②4年間を見通した進路関係のLHRの計画、キャリア・パスポートの活用、行事の実施について定着させる。 ③外部の人材を活かした進路行事を企画し、実施する。 ④定期的に進路だよりを発行する。	①キャリア・パスポートを活用し、主体的な進路活動ができたか。 ②各種の進路行事を通して、生徒の更なる進路意識が向上したか。 ③ハローワーク、外部業者、就職支援アドバイザーの有効活用により、新しい進路行事ができたか。 ④進路情報誌や進路通信を配布し、正しい進路情報を生徒に伝えられたか。	①キャリア・パスポートを授業内(4年生)で活用し、概ね、希望する進路を実現した。 ②1学期に全学年合同のキャリア・パスポートの指導を実施した。 ③マナー講演会、進路ガイダンス、上級学校訪問、企業見学会、新入社員に学ぶ等(11回・参加生徒延べ30人)の進路行事をを外部の人的資源で実施した。 ④進路情報誌や進路通信を定期的に発行し、情報を生徒に伝えた。	A	各種の進路行事を通して主体的に行動できる生徒を育てて進路実現に繋げる。 ・社会経験の豊富な生徒が在籍しており、この生徒から他の生徒へメッセージを伝える場面などで多角的に学習できる機会を設ける。 ・生徒のニーズに応えられるように、企業との関係を構築し就職に繋げる。 ・個々の教員の指導力を上げる。 ・進路決定率100%を目指し、就職支援アドバイザーと進路指導部、担任がこれまで以上に連携をし、適切な情報共有がなされるよう工夫が必要である。
3	<現状> ○ホームページのアクセス数が伸びているが、学校見学の問い合わせや参加者数の増減は少ない。 <課題> ○本校志願者数を確保する必要がある。 ○保護者や地域との連携を模索する必要がある。	○ホームページの更新頻度を増やし、アクセス数を更に伸ばす。  ○志願者数を増加させる。  ○保護者や地域と連携できる機会を増やす。	①行事等が行われた時はもちろん、日々、定期的にホームページを更新する。 ②本校のPRのために学校案内等を積極的に配布する機会を設ける。 ③PTA活動を積極的にを行い、授業参観等、保護者が来校しやすい環境を整える。 ④ボランティア活動等で生徒を地域の行事に参加させる。	①ホームページの更新数、アクセス数が昨年度と比べて増加したか。 ②学校見学希望者が昨年度より増加したか。 ③概ね、良い評価を得ていると考える。 ④年間3回の授業見学、体育祭、予餞会での保護者来校者数は昨年度より増えた。 ⑤生徒会を中心に、駅前での赤い羽根募金活動を行い、日本赤十字に寄付した。	①ホームページのレイアウトを改良し、定期的に更新した。訪問者数は増え、セッション数は50%上昇した。 ②昨年とほぼ同様である。 ③概ね、良い評価を得ていると考える。 ④年間3回の授業見学、体育祭、予餞会での保護者来校者数は昨年度より増えた。 ⑤生徒会を中心に、駅前での赤い羽根募金活動を行い、日本赤十字に寄付した。	B	・より多くの教員が積極的にHPの更新を行うように啓発し、その情報発信が生徒募集につながるように努める。 ・授業参観や行事等に保護者が来校する機会が少ない。保護者が参加したくなるように、行事や授業参観を見直すことで、来校してもらう機会を設ける。 ・地域の祭りの参加は叶わなかったが、来年度引き続き地域の方とやり取りを行いながら実現に向け計画していく。
4	<現状> ○生徒は、概ね落ち着いた学校生活を送っている。 ○立哨指導、巡回指導で生徒とのコミュニケーションを深めている。 ○長期欠席者は少ない。 <課題> ○生徒が抱える悩みが多様化しており、生徒が相談しやすい体制を確立する必要がある。	○生徒への積極的な声かけや信頼関係づくりを行う。  ○安心・安全な学校生活を送れる環境を作り、不登校(長期欠席)を未然に防止する。	①生徒理解を深めるために、日々の立哨指導や巡回指導を継続する。 ②不審者侵入防止対策を行う。 ③不安を抱える生徒の情報を共有し、必要に応じて外部機関とも連携をする。 ④スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの効果的な対応のために来校日を周知する。	①転学者数及び退学者数が昨年度より減少したか。 ②不審者侵入防止対策が実行できたか。 ③長期欠席者数が昨年度より減少したか。 ④スクールカウンセラーの及びスクールソーシャルワーカーの活用で改善が見られた生徒がいたか。	①転学者は1名。 ②正門の施錠や正門前での立哨指導を行い不審者侵入防止対策を行った。 ③長期欠席者数は横ばいであるが、養護教諭の巡回で早期に対応できて通学できるようになった生徒も見られた。 ④SCは緊急相談を含め月2回程度、教職員研修会を1回実施した。また、SSWを活用し生徒の支援を地域と連携し行った。 ・教職員心臓蘇生法研修会は、消防員講師が確保できず保潔部員が行った。	A	・一定数存在する不登校生徒等の対応が必要である。 ・SCが生徒を観察する時間を確保するなど、より有益な対応ができる等に工夫が必要である。SCとSSWには学期に1回程度教育相談委員会と同席してもらい、専門性を活かした視点から連携を図っていききたい。 ・引き続き生徒に寄り添う指導を心掛け、小まめな声かけ等を実施し生徒と教員の信頼関係の構築を図る。

学校関係者評価
実施日 令和6年2月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員の色々な意見を聞いて学校の様子が良い方向に向かっていることがうかがえた。基礎学力の定着と各種検定試験の向上となり一定の成果に現れたものと思う。</li> <li>・若い頃からPC等に対応出来ることは良いと思う。情報を共有しながら進めてほしい。</li> <li>・タブレットの授業がスムーズになってきたように思う。</li> <li>・アクティブラーニングやICTの活用など、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・生徒を飽きさせないで、学校が楽しいところであると考える学校づくりを望む。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の人的資源を効果的に活用していることは素晴らしい。</li> <li>・全日制と同じような進路活動ができるのは大宮商業の誇りではないか。今後も是非続けていただきたい。</li> <li>・進路実績率も大変高く、保護者として、生徒の成長がとても楽しみである。</li> <li>・低学年でなかなか進路について意識できないのは、身近ではないので仕方がないことなのかもしれないが、進路の可能性の幅を広めることが大切だと思う。</li> <li>・個々の性格や能力に応じ、助言やサポートを引き続きお願いします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携やコミュニケーションは、非常に大切なことであり、今後も強めてほしい。</li> <li>・自治会や他団体との交流など貴重な体験であり、素晴らしいものである。</li> <li>・HPは見やすいが学校の様子が感じにくく、入学を考える中学生には、情報が足りなく思う。内容を充実させ、本校への関心を強めてもらいたい。</li> <li>・地域住民としてコミュニティスクールを常に意識して行動したい。生徒たちに良いマナーを身に付けられるサポートをしたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を共有し、コミュニケーションが向上するよう願う。</li> <li>・外部講師の活用が素晴らしいと感じる。回数、人数、業種など、生徒にとって有益だったと思う。</li> <li>・ヤングケアラーについて、生徒への周知をお願いする。</li> <li>・授業でコミュニケーションがとれていても、休み時間に誰とも話せなくなる子もいると思う。</li> <li>・情報の内容が重くなる調整がむずかしいが、階層化し、重要なポイントを強調して伝えることで理解しやすくなると思う。</li> </ul>